

作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、㈱日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『ファーストクラスの心配り』、『あなたの人格以上は売れない!』(プレジデント社)、『成「幸」学』(講談社)、『出過ぎる杭は打ちにくい!』(サンマーク出版)、『面白くなくちゃ人生じゃない!』(ロングセラーズ)、『小説・球磨川』(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.3percent-club.com

21世紀だ！ ―――― 人生・農業リセット再出発 198

日本発インスタント食品が地球を変えた！

幼い頃に、ポリポリとおやつ代わりにかじっていたチキンラーメン。お湯を注ぐだけでラーメンになるインスタントラーメンが、人類の食文化を変えてしまうことになるとは、あの当時は誰も想像しなかった。麺類の起源は中国なのかイタリアか本家争いの軍配は不明だが、２千年以上も前の紀元前であることは確からしい。麺を茹でるには、うどんや蕎麦でも５分以上、パスタだと10分はかかる。

硬いと食べられたものではないし、軟らかすぎるとドロドロに溶ける。それが、お湯を注いで３分待つだけで、硬くも軟らかすぎもせず、丁度良い按配で麺の形状も変わることなく美味しい麺が食べられる。今では世界中どこのコンビニやスーパーでも販売している即席麺。終戦直後の大阪、梅田の闇市で中華ソバ屋台の長蛇の列に並んでいる男がいた。

安藤百福（ももふく）は、これほど麺類好きの日本人が多いのだが、自宅で美味しいラーメンを作るのは難しい、誰でも簡単に家で作れる即席の中華ソバは出来ないものだろうかと考えた。池田市の自宅に帰った百福は、奥さんが天婦羅を揚げているのを見つめていた。食べてみたら、シャキッとサクサクに仕上がっている。そうだ！　高熱の油で揚げると水分が飛んでしまい、多孔質になる！　蒸した麺に味付けをして、160度ぐらいの油で揚げて乾燥させる加工方法「瞬間油熱乾燥法」の発明となる。

この乾燥麺に熱湯を注ぐと多孔質に浸透して、何と２分少々で食べられるようになった。袋の乾燥ラーメンを丼に入れて熱湯を注ぐだけで、自宅にいても屋台のラーメンを２分で食べられる！　これは大ヒットするぞ、と一個35円で売り出した。

終戦から13年後の1958年は、大卒の初任給が１万３千円、国鉄の初乗り10円、銭湯16円、うどん１玉が６円の時代だからかなりの高額である。ところが、「魔法のラーメン」は爆発的に売れて、生産が追いつかないほどになり、他社も参入して20を超える銘柄が登場する。百福が発明した即席麺の『日清食品』のお陰で、今まで「支那ソバ」「中華ソバ」と呼ばれていたのが、すべて「ラーメン」に変わってしまった。清国皇帝『ラストエンペラー』の愛新覚羅（あいしんかくら）・溥儀（ふぎ）は、亡くなる直前に、好物だった「チキンラーメンを食べたい」と言った。

1966年に百福はアメリカへ即席麺のセールスに出かけた。ところが、現地にはドンブリや箸が無かった。仕方なく、チキンラーメンを砕いて紙コップに入れて熱湯を注ぎ、フォークで食べさせるしかなかった。当時の紙コップは内側に耐水用に蝋（ろう）を塗ってあったので、熱湯に溶けてラーメンが奇妙な味に変質してしまった。ＪＡＬ国際線で酒のおつまみに「マカデミアナッツ」を出しているが、これはアルミ箔の袋に密封されている。機中の百福にアイデアがひらめいた。紙コップではなく、発泡スチロールのコップにして、蓋はアルミ箔にしたらどうだろう！　こうして、袋から脱皮して誕生したのが、世界的に大ヒットした『カップヌードル』である。

安藤百福の画期的な発明で、焼きそば、うどんなど即席麺ワールドの誕生になり、世界中で気温に関係なく長期保存が可能に、輸送や収納、備蓄、安価で、どこでも直ぐに食べられるという、地球上のエネルギー節約と食糧不足も補えるなど、災害時の非常食としても人類に多大な貢献をすることになった。これが幸いにも偶然だったのか、あるいは、百福は重々承知の上だったのか、「鶏・チキンラーメン」だったから良かったのである。豚骨ラーメンだったら、膨大な人口を擁するインドネシアを含むアラビアなどのイスラム社会では、タブーとして食されることは絶対に拒否されただろうし、牛肉ラーメンであったら、牛を聖なる神の使いとするヒンズー教のインド社会では、まず受け入れられなかったはずだ。

本田宗一郎は言う。「発明の原点は、どうしても二階に昇りたいと思うかどうかだ。そうすれば、ハシゴを思いつく」